

令和7年度 浜松市立都田南小学校 学校評価報告書

1 自己評価

(1) 自己評価の方法について

今年度を実施された子供アンケート、教員アンケート、生活アンケート、保護者アンケートをもとに、本校の令和7年度の重点について、評価した。

(2) 結果からの考察（○成果●課題）

○全体的に、児童の自己肯定感は高く、概ねねらいを達成している。

○いじめの未然防止、早期発見、早期対応については、概ね保護者への理解を得られている。

○保護者と教職員の結果が概ね一致している。

○ICT を使って学習していることについて、昨年度に比べて児童が肯定的に捉えている。

●児童が本を読む習慣があるという回答が減っている。

→ICT の利用に伴い、読書する時間を以前より確保できていない。

2 学校関係者評価

12月16日（火）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、自己評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。委員からは以下のような意見があった。

- ・ 去年の教職員の評価が低かった。児童の自己評価が毎年高いのは先生方がしっかりとほめてくれるからだと思う。とても良い傾向だと思う。
- ・ 保護者の視点から、回答に迷うのは学校での様子についての質問項目。家の様子は分かるけれど学校でのことは正直よく分からない。子ども自身の自己評価が高ければよしとしている。
- ・ 気になるのは「困ったときに相談できる先生がいる。」という質問に対してあまりそう思わないと答えている子が少しいる。
- ・ タブレットを教育に使うことについて。日本では検証もしないでどんどん進めているが本当に良いのか疑問だ。フィンランドではやめたそう。
- ・ 本を読まなくなっている問題はあらゆる年代で起きている。子どもも保護者の姿を見ている。読書によってつく力とICTのバランスを改めて考えたいと思う。
- ・ 本を開く時間をとること。どんな本でも良いから習慣づけることが大切。
- ・ いじめの項目から友達に対しての不満を子どもが親に訴えてくれたらその気持ちを受け止めてあげることで誰かを攻撃することを未然に防げると思った。親が気にしてあげることが大切。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図る。

- ・ ICT の利用の目的を明確化し、読書とともに時間を定めて使用していく。
- ・ 保護者が児童の様子がよりわかるように、面談や懇談会だけでなく通信などで積極的な情報発信の機会を多く設ける。
- ・ いじめ対応は、より未然防止、早期発見に努めるよう「基本方針」を毎年見直していく。